

バイモ（貝母） *Fritillaria verticillata* var. *thunbergii* は、ユリ科バイモ属に属する多年草です。和名の「貝母」は、地下にある鱗茎が二枚貝を合わせたような形をしていることに由来し、生薬としても古くから利用されてきました。原産地は中国で、日本には薬用植物として渡来し、現在では各地で観賞用としても栽培されています。春先に地上へ芽を出し、細長い葉を輪生させながら伸び、その先に淡い黄緑色の花を下向きに咲かせます。花弁の内側には網目状の紫褐色の模様があり、控えめながらも独特の美しさを持っています。

花後は種子を形成し、地上部は初夏には枯れて休眠に入るといふ、典型的な春植物の生活史を示します。3月下旬の小石川植物園では、まだ柔らかな春の光の中で、風に揺れる細い葉の間から、静かにうつむく花の姿が印象的でした。派手さはありませんが、春の訪れを告げる繊細な存在として、じっくり観察したくなる植物です。

